
カンレキ

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カンレキ

【Nコード】

N5170J

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

カンレキというロボット小説誕生。なんと、トランスフォーマーの枝分かれ作品です。

誕生 part 1 (前書き)

面白い作品です。

誕生 part 1

このお話は、少しショッキングな描写がありますご注意ください。

一つの惑星らしき生命体が、宇宙支配を目論んでいた。

カンレキというアンチヒーローロボットがいた。

直径23000?の生命体。

こいつは、その謎の集団の一人。

カンレキは、力を少しずつ貯めていた。

幾多の星を、腐らしている生命体。

ここのリーダーは、相当強いらしい。

カンレキは、勢いを増して強さ調整をしていた。

謎の生命体は、カンレキのいる惑星を壊した。

カンレキは、怒りに暮れていた。

その世界が火星のような世界になってしまったことに。

誕生 part 1 (後書き)

次回もまた見てください。感想よろしく

誕生 part 2 (前書き)

戦いの前に、カンレキが大暴れする。

誕生 part 2

カンレキは、自分の星を見てイライラしていた。

そして、自分の星を壊すぐらいに暴れまくった。

苛立ちを隠して、敵を探した。

23, 000キロメートルの生命体は、変形をしていた。

引き連れるは、700体の大きさ12メートルの小型兵士だった。

「もうじき、敵がやってくるそいつを倒せばリーダー様に褒められるぞ良いな。」

「了解しました。レーサッド隊長。」

あの巨大な生命体の名前は、レーサッドという名前だった。

カンレキは、700体の小型兵士を見た。

「俺の方が、2倍大きいからって、調子は付くなよ!」

小型兵士が、攻撃をした。

カンレキは、軽やかに避けていき、小型兵士に弾丸を放った。

次回に続く。

誕生 part 2 (後書き)

次回もお楽しみに。感想お願いします。

誕生 part 3 (前書き)

誕生はあと二回ほどで終わります。

誕生 part 3

カンレキの能力は、小型兵士を8分で倒した。

「まだまだ余裕だ。」

しかし、第二波がやってきた。

数は、2600体とかなりの数だった。

カンレキは、ロードプロセッサーを開けた。

待針ミサイルを100発、発射した。

カンレキは、それらをよけによけまくった小型兵士を倒しまくった。

第二波は、5分で崩れた。

レーサッドは、怒りに満ちてさらに第三波を繰り出した。

数は、10万體とけた外れに多かった。

カンレキは、ロードプロセッサからペン型ミサイルを60発、取り出して発射した。

「数が多いが、私には、対策物は充実しているのでね。」

待針ミサイルも700発解き放った。

レーサッドが現れた。

変形した時の大きさは、74000キロメートルの大きさになっていた。

「カンレキよ。ここで死んでもらう覚悟しろ。」

カンレキは、ロードプロセッサから、糊の容器型ミサイルを1発だけ取り出した。

次回に続く。

誕生 part 3 (後書き)

次回もお楽しみに。誕生は、宵暁になります。誕生は、part 5で終わります。

誕生 part 4 (前書き)

次のお話で終了です。感想よろしく

誕生 part 4

糊の容器型ミサイルを一発だけ放ったカンレキは、瞬時に小惑星の後ろに隠れた。

「でかい、74000キロメートルが、あんだけということは、作戦の建て方を考えなければ。」

レーサッドは、探しまくっていた。

「この小惑星の後ろに隠れているな。小惑星事ぐちゃぐちゃにしてくれる。」

レーサッドは、小惑星を破壊したが、カンレキがいなかった。

カンレキは、ペン型ミサイルを600発、レーサッドの右腕と左腕に打ち込んで爆発させた。

レーサッドにとって絶望的な出来事になった。

右腕と左腕がなくなってしまった。

あるのは、回路らしき部分だけ。

「これで、形勢逆転だな。」

カンレキが、笑った顔をしながら言った。

誕生 part 4 (後書き)

part 5で、誕生は、終わります。次は、宵暁です。全部で8回もあります。

誕生 part 5 (前書き)

誕生が完結します。次のお話も期待してください。

誕生 part 5

「これで、形勢逆転だな。」

カンレキが不気味に笑うような顔をしていた。

レーサッドは、腹から、レーザービームをカンレキに命中させた。

カンレキの出力が、800から714に減った。

カンレキは、手鏡型ミサイルを4発撃った。

レーサッドの頭に突き刺さって爆発した。

レーサッドの体は、両腕がない。頭の半分がなくなっているということだ。

カンレキは、ハサミ型ミサイルを400発撃ちこんだ。

大爆発をしてレーサッドは跡形も無く消えた。

敵側のリーダーは、次の相手呼び出していた。

「ケムコンよ頼むぞ。」

「かしこまりました。将軍。」

ケムコンは、1000?の球体になって行動している。電気の力で恒星を狂うように核融合させる。厄介者だ。変形すると、5,000キロメートルの兵士になる。

14メートル兵士を5千万体、所有していた。

「カンレキは、俺がこの手で殺す。」

カンレキは、休憩をとっていた。

誕生 part 5 (後書き)

次回は、宵暁です。part 1～part 8までありますのでご注目。

宵暁 **p a r t 1** (前書き)

14メートル兵士が、小さな準惑星の住民に直撃。残酷な描写がありますのでご注意ください。

宵暁 part 1

とある準惑星。

直径1120?の星で、砂漠な感じのする大地に、住民が住んでい
る。

住民の大きさは、105.5?と小さい。

カンレキが、やってきた。

「君たちと、仲がいいから安心してくれ。」

住民のリーダーが、カンレキだと分かると喜んでいた。

その日の夜。

カンレキは、緊急事態としてこの準惑星に訪れたという。

「この星を壊そうとする化け物がいるのか。」

「その化け物を懲らしめるのが我が役目であり、星々を守るのも我が使命なのです。」

14メートル兵士が6体降り立った。

住民30人は、おびえていて、何もできなかった。

兵士は、住民30人を残虐的に殺した。

返り血を浴びた兵士は、カンレキを見つけた。

「あいつが、あんなところにいるぞ。」

「殺るなら今だ。」

宵暁 **p a r t 1** (後書き)

p a r t 2 の展望にご注目ください。感想もよろしく。

宵暁 p a r t 2 (前書き)

敵の数が半端ではないことを知ったカンレキ。はたして秘策はあるのか。感想も宜しく

宵暁 part 2

カンレキの背後に近づく、六体の小型兵士。

しかし、カンレキに気付かれてしまった。

「君たち、ここで何をしているのかね？」

「カンレキを殺しに来たのさ。」

カンレキは、ハサミ型ミサイルを一発撃った。

小型兵士は、跡形も無く全員消えた。

「小型兵士がいることは、何処かに巨大なリーダーがいるに違いないな。」

カンレキの予測は、当たっている。

この星の東、5千万キロメートル離れたところにケムコンがいた。

「ケムコン将軍。6体の小型兵士がカンレキにやられました。」

「あの準惑星をぶっ壊せ、何が何でもな。」

ケムコンの脅威は、小型兵士を300万体制り出すことであつた。

カンレキに未曾有の恐怖が訪れる。

「嫌な予感がしてきたぞ。」

宵暁 part 2 (後書き)

次回の展望に御期待あれ。

宵暁 **p a r t 3** (前書き)

カンレキにとって、最大の力が試される。

宵暁 part 3

「嫌な予感がしてきたぞ。」

カンレキは、警戒を強めていた。

次第に近づく、ケムコンは、小型兵士を300万體程繰り出した。

カンレキは、キューブ型ミサイル600発を撃った。

小型兵士は、避けていた者がいたが爆風に巻き込まれて他の兵士とぶつかり爆発したりした。

残りは、11000体となった。

カンレキは、急速チャージを始めた。

「このミサイルでも喰らえー。」

手鏡型ミサイルを500メートルの大きさにして放った。

小型兵士は、4体ほど生き残ったが、ミサイルはケムコンに命中した。

ケムコンは、直径700メートル深さ25キロメートルのクレーターみたいなのが出来た。

「くそっ、カンレキ。覚えていろ。」

4体の小型兵士は、カンレキによって倒された。

ケムコンのもとにいる小型兵士は、さっきの攻撃で1000体しか残っていなかった。

「カンレキの奴、攻撃力が腹が立つ程強すぎる。」

ケムコンのもとに、直径500メートルの物体がやってきた。

「私に、お任せあればカンレキを殺すことができます。」

「それは頼もしいな、ペトラックユニ。」

「はい。」

カンレキのいる準惑星から、600万?離れたところに暗雲が現れた。

宵暁 part 3 (後書き)

次回の展開は、すごいことになります。準惑星の運命とカンレキの運命が重大です。お楽しみに。

宵暁 **p a r t 4** (前書き)

カンレキの体力ケージが限界に差し迫る戦いが始まる。

宵暁 part 4

ペトラックユニニは、次第に準惑星に近づいていた。

カンレキは、準惑星を護るため、微調整をしていた。

「体力ケージを、950に引き上げたことだし準惑星の運命を打ち砕くか。」

ペトラックユニニが、襲い掛かっていた。

カンレキは、ハサミ型ミサイルを1発撃った。

ペトラックユニニは、左足を少し損傷していた。

「そんな攻撃は、ウザ苦しく面白くも無い。」

攻撃技が、準惑星に響いた。

カンレキの体力ケージが950から100になってしまった。

カンレキは、力を蓄えていた。

どうやら、あれをやるつもりである。

「抵抗しても、無駄。カンレキは、死に至らしめますよ。」

このピンチは、塗り替えれるのか？

宵暁 p a r t 4 (後書き)

次回は、すごい展開になります。アクセス解析を見ましたが、どうやら人気があるみたいです。この作品は、さすがに異色の作品だからだと思います。

宵暁 **p a r t 5** (前書き)

カンレキのエネルギー爆発発動。敵がついに

宵暁 part 5

「抵抗しても無駄です。カンレキ貴方は死に至るのですから。」

カンレキは、不気味ににやけた。

「それは、貴様だ。」

巨大なキューブ型ミサイルが、カンレキの右手にあった。

ペトラックユニニは、少しおびえていた。

「やめろ、こんなのは冗談だ。」

「ちっとも、冗談に聞こえない。」

巨大なキューブ型ミサイルは、二つになった。

「喰らえ、カンレキ流暴走烈火、緋色ノ暖!」

ペトラックユニニは、大爆発して足だけが残った。

ケムコンは、変形した。

カンレキは、体力を貯めていた。

小型兵士が600体やってきた。

今後の戦いにどんな展開が生まれるのか、楽しみなところである。

宵暁 **p a r t 5** (後書き)

次回の展開で、p a r t 8までの戦いが切り開かれます。

宵暁 part 6 (前書き)

準惑星にとんでもない悲劇がそして、カンレキが覚醒する。

宵暁 part 6

ケムコンの攻撃が準惑星に来ようとしていた。

カンレキは、600体の小型兵士を全員倒した。

「まずい。」

と思ったが、準惑星はケムコンの槍に射抜かれていた。

準惑星は、マントルを物凄い刺激で破壊された為、爆発寸前に陥った。

カンレキは、ケムコンが持っている手に、ハサミ型ミサイルを4発撃ちこんだ。

ケムコンの手は、碎かれず、槍に大きな傷が付いた程度だったその時、準惑星が爆発した。

ケムコンのパワーケージが、950から365になってしまった。

「おのれ、ケムコン。準惑星を崩壊させやがって―――。」

カンレキは、レベル2モードになった。

パワーケージは、365の4倍になった。

「パワーアップしても、無駄だ。カンレキ貴様は、この槍に真つ二つにされて死ぬ。」

カンレキは、槍を持って槍を真つ二つにした。

「なっ！こんなことがあったまるか。」

宵暁 p a r t 6 (後書き)

宵暁が終わると次は、満たしたことになります。お楽しみに

宵暁 part 7 (前書き)

ケムコンを頭だけにする作戦は、うまくいくのか？

宵暁 part 7

レベル2に覚醒したカンレキは、ケムコンの左腕をちぎろうとしていた。

ケムコンは、両肩からビームを放った。

だが、カンレキのスピードが速かった。

「速い、この動きが読めない。」

カンレキは、ケムコンの左腕を引きちぎった。

カンレキの戦闘能力が急激に上がったせいでケムコンは、不利な状態となっていた。

カンレキは、ミサイルを発射した。

煙が消えた時、ケムコンは頭だけになっていた。

カンレキは、元の力に戻っていた。

「ケムコン、ここで死んでもらう。」

カンレキは、キューブ型ミサイルを1000発用意していた。

宵暁 **p a r t 7** (後書き)

次回の展開は見逃さないぜ。「満たしたこと」については、
p a r t 1 ～ p a r t 6 まであります。

宵暁 part 8 (前書き)

いよいよ宵暁が、終わります。次は、満たしたこと。part 1～part 6までです。

宵暁 part 8

カンレキのミサイルは、発射準備を整えた。

「ケムコン、此处で死んでもらう。」

ミサイルを放った、カンレキは、ケムコンの首に命中させた。

そして爆発して消え去った。

將軍は、ロンヴを呼んだ。

ロンヴは、全長500メートルの兵士。

どうやら彼は、剣を持っている。

12メートル兵士と16メートル兵士、15万体の軍団を率いる。

カンレキは、このことが謎で仕方なかった。

「謎の集団の正体を暴かなければな。」

惑星・モディアメディアストという惑星にカンレキがやってきた。

この惑星は、半径9000キロメートルの惑星で、とても広大な海で、形成されている。

宵暁 **p a r t 8** (後書き)

次回は、満たしたことのp a r t 1です。硬いお話になりやすいかもしれませんが、よろしくお願いします。

満たしたこと part 1

惑星・モディアメディアの景色は綺麗な海であった。

カンレキは、いろいろと探索していた。

海の中を探したのだが、何処にも生命体といえる者がいなかった。

ロンヴは、16メートル兵士を5万体制意していた。

「嫌な予感が、してきたぞ。」

ロンヴが仕掛けた罠に、カンレキは引っ掛かった。

5万体の16メートル兵士が襲ってきた。

カンレキは、時計型のミサイルを10発撃ちこんだ。

16メートル兵士は、軽々倒された。

カンレキは、もはや疑いの余地はないということが、分かっていた。

「悪の組織を倒さなければ。」

ロンヴは、モディアメディアに近づいていた。

満たしたこと part 1 (後書き)

展開がますます見えやすくなってきた。

満たしたこと **part 2** (前書き)

ロンヴの軍団にもう一つの敵が見える。

満たしたこと part 2

ロンヴは、12メートル兵士を全員繰り出した後、16メートル兵士を待機させていた。

カンレキは、海の中に入った。

「住民のいない星か。」

ロンヴは、少し考えていた。

「カンレキの奴、海の中にいる。見つけ次第、胴体を引き裂け！」

16メートル兵士を全員、惑星に出陣させた。

12メートル兵士は、カンレキを追い詰めていたが、簡単に倒していた。

カンレキは、次に来る相手を倒す為に、ペン型ミサイルを70発用

意していた。

「ミサイルの準備を整えた。これよりミサイル発射。」

16メートル兵士は、全滅した。

ロンヴは、ある敵を呼び寄せた。

シラードとパーンとディストの三体だった。

シラードは、全長200メートル。

パーンは、全長185メートル。

ディストは、全長230メートル。

カンレキにとってやりづらい軍団が現れ始めた。

満たしたこと **part 2** (後書き)

満たしたこと part 3になりますが、展開が面白いですよ。

満たしたこと **part 3** (前書き)

三体の相手に苦戦。カンレキの変形については、トランスフォーマーからヒントを得ました。

満たしたこと part 3

三人のロンヴの部下は、カンレキに向かった。

カンレキは、敵の気配をして変形した。

戦闘機に変形したカンレキは、ミサイルを4発撃った。

シラードとパーンとディストは、カンレキに向かって攻撃を開始し始めた。

カンレキは、攻撃を受けた。

しかし、カンレキは、レベル2モードというより、スタンダードモードになった。

スタンダードモードになったカンレキは、パーンに向かって攻撃をした。

「あいつ、攻撃能力が上がったぞ。」

カンレキスタンダードモードの全長300メートル。

キャノン砲から、キャノンが出た後、シラードは、左腕を破壊されていた。

「こいつ、かなり強いぞ。」

「だったら、俺のキャノン砲を喰らえ。」

しかし、カンレキのキャノン砲と比べると、明らかにパワーが上だった。

「これが、貴様を死なせるパワーになれ！」

カンレキに、瞬殺ミサイルを放った。

しかし、カンレキはさらにパワーアップをしていた。

カンレキエキスパートモードとなってしまうた。

全長は、スタンダードモードと同じである。

エクスパートモードは、シラードとパーンとディストは、一気に襲い掛かった。

カンレキエクスパートモードは、悠久の闇の中から、ハンマーを取り出して、三人にぶつかり始めた。

満たしたこと **p a r t 3** (後書き)

p a r t 4は、遂にロンヴがカンレキの前に姿を現します。

満たしたこと **p a r t 4** (前書き)

エキスパートモードの力は、恐ろしい力である。

満たしたこと part 4

エキスパートモードになったカンレキは、相当な力を持っている。

ロンヴの行動で、総てを決めているはずが、三人は、近寄ろうとしていた。

「こいつ、力が原因で、近づけねえ。」

カンレキエキスパートモードの能力は、異常なほど強かった。

シラードを全壊に下した後、パーンの下半身を破壊した。

「こいつ間違いなく強い。」

ハンマーを投げ捨てた、カンレキは拳で、ディストを殴った。

ディストは破壊された。

ハンマーを投げ捨てた先にパーンの上半身があったが、これも破壊

された。

ロンヴは、惑星を蒸発させる装置を持っていた。

「これでカンレキもあの世行きだな。」

満たしたこと p a r t 4 (後書き)

次回の展開は、ロンヴとの決選前篇です。

満たしたこと **part 5** (前書き)

ロンヴとの戦い、途中でエキスパートモードが・・・

満たしたこと part 5

ロンヴは、カンレキに近づいた。

カンレキは、気配を感じていた。

「其処だな!!」

ロンヴは、しまったと思いながらミサイルを発射したが、カンレキは、ミサイルで相打ちで取った。

カンレキは、パンチを5回連続ロンヴに襲い掛かった。

ロンヴは、左頬に傷が入った。

カンレキは、キューブ型ミサイルを発射して、ロンヴの左肩をかすめた。

「この力を跳ね返してやる。」

カンレキは、エキスパートモードから、元の姿に戻ってしまった。

「不味いこのままでは。」

ロンヴは、惑星蒸発砲を発射した。

満たしたこと **part5** (後書き)

次回は、いよいよ後半戦です。

満たしたこと **p a r t 6** (前書き)

後半戦スタート。

満たしたこと part 6

ロンヴの発射した、惑星蒸発砲をカンレキは、シールドで防いだ。

「力の限界だろカンレキ！」

「力の限界というふざけた物は、存在しない。」

カンレキは、手鏡型ミサイル10発を放った。

ロンヴは、避けていったがカンレキはキューブ型ミサイルでロンヴを吹き飛ばした。

ロンヴは傷だらけになった。

カンレキは、ペン型ミサイルを解き放って、ロンヴを満身創痍に追い込んだ。

カンレキは、拳を一発殴り、ロンヴが爆発した。

謎の邪悪な軍団は、いまだに動いていた。

満たしたこと **p a r t 6** (後書き)

次回は、狂気の前提 p a r t 1 ～ 9 までです。お楽しみに

狂気の前提 p a r t 1 (前書き)

小型兵士が、カンレキに頼みごと其れは一体？

狂気の前提 part 1

カンレキは、敵の存在を見つけようと先を進んでいた。

緩やかで静かな宇宙だが、敵は存在する。

小型兵士が、カンレキに向かってきた。

「敵か？」

「お前の探している敵軍団が、裏切り行為で騒いでいるんだよ。」

カンレキは、どういふことなのか分からなかった。

宇宙に生まれた邪悪なる軍団には、裏切り行為で逃げてくるものが惑星を破壊しに行っていることを知ったカンレキは、小型兵士にその場所を連れていくように命じた。

カンレキにとっては、危険行為だとわかっていたが・・・

「裏切り者を探せ！」

「あいつは、カンレキじゃないか！」

「倒すぜ。」

カンレキは、ペン型ミサイルを効率よく発射して威嚇射撃をした。

「どこをめがけて発射しているんだ馬鹿だぜ！」

カンレキは、小型兵士と合体を開始した。

カンレキは、小型兵士が下半身になったことでスピードがさらに速くなった。

敵の一人の胸にペン型ミサイルが刺さっていた。

派手に爆発をした。

「こいつ、強いぞ。逃げろー！」

カンレキにとっては、その裏切り者をとてにも気にしていた。

狂気の前提 part 1 (後書き)

なんだか、すごいことになってます。

狂気の前提 part 2 (前書き)

裏切り者の一人が、カンレキと一緒に行動を共にしたいというものが現れた。

狂気の前提 part 2

カンレキの前に、ある人物が現れた。

どうやら裏切り者の一人である。

「敵軍から、裏切ってきました。ヨズプイムです。」

「君がどうしてここに。」

「カンレキのお供をしたいと思っています。」

「罨じゃないだろうね？」

「大丈夫です。罨なんてありません。」

カンレキとヨズプイムは、裏切り者達が移動した場所に向かった。

その場所にそって、もう一人の影が存在していた。

「裏切り者がカンレキの相棒になってしまいました。どうしますか？」

「良いだろう、殺せ！」

「了解しました。」

カンレキは、裏切り者全員に呼びかけた。

「さあ、今、裏切った者達に次ぐ、カンレキと共に動こうではないか。戦いをしようではないか。」

「みんなは、かけ声を出した。」

狂気の前提 part 2 (後書き)

展開は、狂気の前提らしさになっていく。

狂気の前提

part 3

カンレキ達は、悪のアジトを見つけるとカンレキの命令で攻撃を始めた。

裏切り者を排除しようと小型兵士たちがたくさん現れた。

「数が多すぎる！」

「冷静になって行動すればいいんだ！」

カンレキの一声で、みんなは、頑張って行動をとった。

敵軍の本拠地に入り込んだカンレキは、部下達に取り押さえられたが、手鏡型ミサイルで振り切った。

裏切り者達は、小型兵士を潰しまくっていた。

「俺は、カンレキのところに行く。」

「分かりました。」

「がんばれよ！」

狂気の前提 **p a r t 3** (後書き)

次回の展開もお楽しみに。

狂気の前提 part 4

裏切り者達は、派遣に役立てやすい感じをし始めていた。

カンレキとヨズプイムが思っているのは、今回の敵が心配だからである。

「相当強い場合は、考えなければならぬからな。」

「そうですね、カンレキさん。」

悪の軍団は、キーゲと三六七七七四〇とボックスティックを呼び出した。

射撃の腕がピカイチな三人は、カンレキ暗殺部隊のメンバーでもある。

「我々に任せれば、カンレキやヨズプイムなんてぶっ殺せます。」

「速く行け！」

「了解しました。プロトアクチニウム様。」

悪の軍団のリーダーが遂に分かった。

カンレキとヨズプイムは、直径34?の天体で一息ついていた。

「いいところに小天体があって良かった。」

「全くだよ。」

三人が次第に近づいていた。

狂気の前提 p a r t 4 (後書き)

次回も続くよ。

狂気の前提 part 5

キーゲと三六七七七四〇とボックスティックは、ヨズプイムとカンレキの後を追った。

小天体から出ようとしたカンレキ達の前に、三六七七七四〇が現れた。

三六七七七四〇は、全長20.5mの大柄。

「ヨズプイムとカンレキは、俺がマイクロ秒殺してやる。」

三六七七七四〇は、発砲したのだがカンレキとヨズプイムは、思い切り避けた。

「これは、罠だ！」

キーゲとボックスティックがカンレキとヨズプイムを襲った。

カンレキとヨズプイムは、34?の小天体にぶつかった。

キーゲは、全長18メートル。カンレキと同じ。

ボックスティックは、全長20メートル。

カンレキ達の運命はいかに・・・

次回に続く！

狂気の前提

p a r t 5 (後書き)

次回も見てね。

狂気の前提 part 6

カンレキとヨズプイムは、先手を取る作戦を考え付いた。

「行くぞ！ヨズプイム！」

「了解、カンレキさん。」

三六七七四〇は、何かにつられるように移動をし始めた。

「バックススティック、三六七七四〇が何処かへ行くぞ！」

「ほっとけ、カンレキを探すほうが先だ。」

三六七七四〇は、ヨズプイムを見つけた。

「カンレキがいるな！」

カンレキは、正義の剣で三六七七四〇を真っ二つにした。

三六七七四〇の悲鳴を聞いたバックススティックとキーゲは、カンレキ達と遭遇した。

「貴様、よくも俺達の大切な仲間を。」

「邪悪な者達が仲間意識を持っているとは、やれやれだな。」

「ぶっ潰してくれるわ、変身。」

キーゲは、ステルス機に。バックステイックは戦車に変形した。

カンレキとヨズプイムは、合体フォーメーションを取った。

「合体戦士、カンレキフルバーストモード！」

キーゲとバックステイックは、哑然としていた。

「なっ、馬鹿な合体しただと。」

「こいつ、余計にぶっ飛ばしたくなっただぜ。」

「待てっ、キーゲ！」

キーゲは、ミサイルをぶっ放した。

カンレキフルバーストモードは、ミサイルを片手で掴んだ。

「なっ！」

「返すぜこれを。」

カンレキフルバーストモードは、ミサイルをキーゲに投げた。

キーゲは、動けないままミサイルの爆発に巻き込まれてしまった。

バックステイックは、キーゲの体を自らの体にした。

「驚いたな、仲間の体を自分にくっつけるとは。」

カンレキフルバーストモードは、巨大な鉋を取りだした。

狂気の前提 part 6 (後書き)

次回、狂気の前提 part 7をお楽しみに

狂気の前提 **p a r t 7 (前書き)**

解、
ト、
ツ

狂気的前提 part 7

カンレキフルバーストモードは、巨大な鉈を取りだした。

バックスティックは、それにも驚かずに攻撃を開始した。

「カンレキ、貴様を地獄に送ってやるー！」

カンレキフルバーストモードは、巨大な鉈でバックスティックを攻撃したのだが、避けられてしまった。

「冷静に理解しておかなければ。」

バックスティックは、ミサイルを10発を放った。

カンレキフルバーストモードは、避けていたのだが、1発が当たってしまった。

「しまった、動きが読まれていたとは！」

カンレキフルバーストモードにとって誤算な事は、スピードが若干落ちていた。

「しかし、攻撃力は上がっている。これに賭けるか。」

カンレキフルバーストモードは、巨大な鉈をミサイル発射台に変形させて巨大ミサイルを放った。

バックスティックは、巨大ミサイルの餌食になり、キーゲと一緒に

消滅した。

カンレキフルバーストモードは、カンレキとヨズプイムになった。

「ヨズプイム、初めてののがつただったか？」

「最高です。カンレキ殿！」

しかし、其れを見ていた影が存在している。

「こいつがカンレキか。此の俺様、デスカイダか容赦しないぜ。」

突然現れた、此のデスカイダとはいったい何者なのか？

カンレキとヨズプイムは、腐っている惑星を見た。

「此処に入るのは、ちょっと心細いですね。」

「此処に奇妙な信号が来ている。」

カンレキとヨズプイムは、その惑星に入り込んだ。

そこに待ち受けていたのは、ブルーガットという敵であった。

そこには、十字架にかけられて死亡している正義の軍団がいた。

「カンレキとヨズプイムか、テメーラを倒してデスカイダ様に祝福の言葉をいただければ。」

次回に続く

狂気の前提 **p a r t 7** (後書き)

狂気の前提が p a r t 9 で終わるので次は、s e a s o n 2 の序章
カクレキ V S アニマトロス獄熱の闘い p a r t 1 ～ p a r t 4 ま
です。お楽しみに！

狂気の前提 part 8

「お前は、ブルーガット！」

ブルーガットは早速、キャノン砲でカンレキを攻撃した。

「危ない！」

ヨズプイムとカンレキは、合体を考えていた。

「いでよ、アルファフォース。」

アルファフォースとカンレキは合体した。

「カンレキスーパーモード！」

ヨズプイムは、援護することに決めた。

ブルーガットは、カンレキスーパーモードを倒そうと考えて、大きな剣で払いのけようとした時、ヨズプイムに剣を破壊されてしまった。

「くそ、これならどうだ！」

カンレキスーパーモードは、ブルーガットの右腕を破壊した。

「このままだとヤバイ、逃げなければ・・・」

狂気の前提 part 9 に続く

狂気の前提 part 8 (後書き)

次回もお楽しみに

狂気の前提 p a r t 9 (前書き)

やっこの物語が終わった。今度からシーズン2になります。

狂気の前提 part 9

「このままだと・・・ヤバい逃げなければ。」

ブルーガットは、そう考えていたが、カンレキとヨズプイムは、こう思っていた。

（ここで彼を逃がしたら、犠牲者が増えてしまう。）

「カンレキさん、合体しましょう。」

「よしっ！カンレキ！」

「ヨズプイム！」

「合体！合体戦士カンレキフルバーストモード！」

ブルーガットは、逃げようとしたが、カンレキのアルファフォースに捕まってしまった。

「しまった！」

「アルファフォース、私に最高のバズーカ砲を与えたまえ！」

アルファフォースは、バズーカに姿を変えて、カンレキフルバーストモードの右肩にドッキングした。

ブルーガットは、もはや逃げれない。

カンレキフルバーストモードは、バズーカから勢いよくミサイルを解き放った。

ブルーガットの体が吹っ飛び首だけになり、起動停止となった。

カンレキとヨズプイムは、近くに冥王星があることに気がついた。

「この準惑星で休憩を取るか。」

「そうですね、とりましょう。」

しかし、ここにはアニマトロスがいた。

「俺の名は、アニマトロスだ！」

アニマトロスの全長30メートル。

カンレキ達は、冥王星で新たな戦いを迎える。

狂気の前提 part 9 (後書き)

次回 カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 1です。お楽しみに

カンレキVSアマトロス獄熱の闘い part 1 (前書き)

season 2の登場です。此のシーズン2が後半戦ですので応援メッセーじなどをくだされば幸いです。

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 1

アニマトロスの脅威をまだ知らないカンレキ達は、冥王星に向かった。

突然冥王星から弾幕が現れた。

「何だ！」

「カンレキ殿、あそこに！」

「サイバトロンスで死刑執行されていない死刑囚アニマトロスではないか！」

カンレキは、アルファフォースをキャノン砲に変形させた。

「これで、攻める！」

カンレキとヨズプイムは、思いつ切りプランAを遂行しようとしていた。

「小癪な、フォースチップイグニッション！ファイヤーキルイング！」

炎の鞭が無数に現れて、カンレキ達をセドナまで吹き飛ばした。

「何という強さだ！ヨズプイム合体で対抗するぞ！」

「了解！」

カンレキは、再びフルバーストモードになった。

「愚かな奴、合体した程度で俺に勝てると思うのか？」

アニマトロスは、カンレキフルバーストモードに殴られ冥王星から追い出された。

「ちっ、甘く見てしまった。」

カンレキフルバーストモードは、アルファフォースを完全開放した。

「これがアルファフォースの力だ！」

小惑星を余裕で貫通するぐらいのビームが放たれた。

「こいつ、やりよる。」

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 1 (後書き)

次回は part 2 です。お楽しみに！

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 2

「こいつ、やりよる。」

アニマトロスは、カンレキフルバーストモードを見た。

「おそらく、カンレキと言う奴は、未知のパワーを開放しているに違いない。」

カンレキフルバーストモードは、アニマトロスに向かってミサイルを放った。

「こいつめ、いきなり攻撃とかふざけるなよ。」

「ふざけてなんかはいない。これがお前の報復だ！」

カンレキは、そう言って再びミサイルを放った。

「くそー！」

アニマトロスは、ミサイルを食らい左腕の一部が破損した。

カンレキは、次の一手を入れる考えを取りだした。

「次で終わりだ。」

一方、デスカイダは・・・

「よし、君達よカンレキ殲滅のためにサイバトロン星で待ち伏せし

ろ！」

「了解！デスカイダ様。」

「吾等、ネメシスディセプティコンに勝ち目のないカンレキよ。ア
ニマトロスを下した後、サイバトロン星に来い！ハハハハハハハ」

カンレキVSアニメトロス獄熱の闘い part 2 (後書き)

次回は、 part 3です。お楽しみに

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 3 (前書き)

カンレキの行動がアニマトロスを窮地へ追い込む。短いのでご注意ください。

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 3

アニマトロスは、次の攻撃を食らうまいと逃げて行った。

カンレキは、アルファフォースを斧に変えてアニマトロスを追いかけていた。

「追いかけてくるな！残酷な奴め！」

「残酷は、お前の方だアニマトロス！」

「フォースチップイグニション！ファイヤーキルイング！」

アニマトロスの攻撃は、カンレキの斧に真っ二つにされた。

「何っ！このままではまずい・・・」

カンレキの攻撃がアニマトロスに深い傷を負わした。

「お前には、私たちの仲間の苦しみがこれほどだと思っているが、闘いは力と力をぶつけてはならない。仲間を思う気持ちと力がぶつかるだけでも損害が出る。それをお前は、糧にとり、自らの強豪にした喜びでいたが、そんなものはただの快楽にしか過ぎない。復讐目的でお前を倒すのではなく、私は死刑執行人としてお前を死刑する。」

カンレキは、一気にアルファフォースをギロチンカッターに変形させた。

「無常なるオートボットめ！デスカイダ様が許しはしないだろう。」

アニマトロスは、そう言いながら煙幕で目くらましをした。

「しまった！」

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 3 (後書き)

次回 part 4。お楽しみに

カンレキVSアニメトロス獄熱の闘い part 4 (前書き)

今回でおしまいです。次回はあとがきをチェック。

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 4

「しまった！」

アニマトロスは、カンレキのすきを狙こうと考えていた。

カンレキは、リンクオフして、ヨズプライムと一緒に別の作戦を立てた。

「煙幕払いのけ作戦の後は、プランCに移行する。」

「プランCに移行ですか分かりました。トランスフォーム！」

「トランスフォーム！」

カンレキとヨズプライムは、レーザー光線で煙幕を払いのけた。

その時、アニマトロスの左足に当たり、アニマトロスの左足がもげた。

「馬鹿な！俺の煙幕を払いのけたうえ攻撃をしてきただと！」

カンレキとヨズプライムは、再び合体して、ミサイルでアニマトロスを攻撃した。

アニマトロスは、負けて大爆発をした。

闘いは、終わったがサイバトロン星に危機が迫っていた。

なんとデスカイダとその仲間たちがサイバトロン星を攻めているのである。

「こいつ、なんて強さだ！」

ハバロンがそう言っていた。

「カンレキなぞ、このわしに勝てるわけがない！デスカイダスペシヤルモード！」

カンレキVSアニマトロス獄熱の闘い part 4 (後書き)

次回 サイバトロンの星の危機を救えが part 1 \ part 13 まであります。お楽しみに

サイバトロン星の危機を救え part 1 (前書き)

カンレキセカンドOPテーマ、最強のトランスフォーマーカンレキ
！や三体合体挿入歌アルファフォースの作る奇跡に、カンレキセカ
ンドEDテーマ、ありがとうと言えるのならに決まりました。

サイバtron星の危機を救え part 1

デスカイダは、スペシャルモードに変形した。

デスカイダはオートボットの一人にキャノン砲で発砲した。

「戦友しっかりしてくれー！」

どうやらアイアンハイドの親友がデスカイダに射殺されたのである。

「次の犠牲者は、誰だ出て来い！」

カンレキのアルファフォースがデスカイダを襲った。

「噂の奴がお出ましか。」

「デスカイダ、お前はサイバtron星から追放する。」

「それは、どうかないでよネメシスディセプティコンゼラーペ共！」

ゼラーペというネメシスディセプティコンの集団がどこからどこなく現れた。

カンレキとヨズプイムは、ゼラーペ殲滅を必死にしていた。

デスカイダは彼等を殺そうとキャノン砲で撃とうとしていた。

「あっ、まずい！このままではカンレキ達がやられる。」

ハバロンは、空を飛びカンレキのいるほうへ向かった。

サイバトロン星の危機を救えpart1（後書き）

次回は、part2です。

サイバトロン星の危機を救え part 2 (前書き)

三合体戦士となるカンレキ。

サイバトロン星の危機を救え part 2

ハバロンは、カンレキ達の方に向かった。

「死ねカンレキ！」

デスカイダは、キャノン砲を放った。

しかし、ハバロンのスピードがカンレキとヨズプイムを救った。

「君は、誰だい？」

「俺は、ハバロン。スピード王だ！」

アルファフォースが三体の戦士を囲んだ。

「三体合体、カンレキハイパーバーストモード！」

「下らん！いくら合体したとはいえ、俺の攻撃から逃れると思うのか。フォースチップイグニッション！デスインパクトフュージョン！」

カンレキハイパーモードに命中してしまったのだが・・・

「カンレキハイパーバーストモードは、アルファフォースで身体を守っているぞ！」

「さすがは、カンレキだ。」

デスカイダはどうやら納得していなかった。

「こいつ、倒してやる。おい、ロンヴ！」

サイバトロン星の危機を救え part 2 (後書き)

次回は、part 3です。お楽しみに

サイバトロンの星の危機を救え part 3

「こいつ、倒してやる。来い、ロンヴ！」

「どうかなさいましたか、デスカイダ様。」

「カンレキというやつらを倒せ！オートボットも皆殺しだ！」

ロンヴは、カンレキ達に襲いかかった。

カンレキハイパーバーストモードは、ロンヴの攻撃を軽やかに避けた。

「どこに行った！」

デスカイダは、背後から襲われた。

「カンレキハイパーバーストモード、こいつは、あなどれん存在だな。デスカイダスペシャルモード！」

カンレキハイパーバーストモードは、ロンヴに向かって攻撃をした。

「くっ、こいつやりよる。」

ロンヴは、右手の一部を失った。

デスカイダは、両腕についた翼型プレスでカンレキを抑えつけた。

カンレキハイパーバーストモードは、耐えに耐えていたがデスカイ

ダの高速回転は、カンレキを吹き飛ばした。

カンレキは、サイバトロンの星の建物にぶつかり建物は崩落した。

デスカイダは、何か嫌な予感を察知した。

「ロンヴ、こっちに来るな！」

「デスカイダ様、どうしたのですか？」

「アルファフォースの強さが、まずい状態になってきている。しかし、わしには好都合な部分を見つけた。」

カンレキは、アルファフォースが次第に暴走し始めていることに気がついた。

「これは、まずいぞ。しかし、あと少しだ。アルファフォースが暴走する前に止めなければ。」

サイバトロン星の危機を救え part 3 (後書き)

次回は、part 4です。お楽しみに。アルファフォース暴走の危機にカンレキは、どう作戦をとるのか。デスカイダは、一体何を企んでいるのか。

サイバトロンの星の危機を救え part 4 (前書き)

カンレキは、最大のピンチを受けていた。

サイバトロン星の危機を救え part 4

「アルファフォースが暴走しないように、3割の力で戦うしかない。デスカイダとは互角には、戦えないが・・・」

デスカイダは、何やら悪だくみの表情をしていた。

「フォースチップイグニッション！ダークデストロイヤー」

カンレキに目がけて一気に追尾ミサイルを発射した。

カンレキは、戦闘機に変形して、追尾ミサイルが相手を確認できなくなる距離まで、離れようとしていた。

「よせつ、君たち。」

ハバロンとヨズプイムは、追尾ミサイル15発に向かって攻撃をした。

「ここは、俺たちに任してください。カンレキさん。」

「そうだ。カンレキさん、デスカイダとロンヴにガツンと一発ぶちかましてやってください。」

「ああ、分かった。アルファフォースよ。巨大カノン砲に変われ！」

カンレキは左腕に巨大カノン砲を取り付けた。

「行くぞ！デスカイダ！」

「ふっ、良いだろう。かかってこい！カンレキー！」

「おらあああああああああ！」

爆発音とともに、周りが静寂と化した。

「デスカイダ様。」

ロンヴが心配していた。

「カンレキさん、大丈夫なのか？」

ヨズプライムとハバロンも心配していた。

カンレキは、左頬に損傷があったが、それ以外は無傷であった。

デスカイダは、左腕と右肩から電気が出ていた、

「体の一部が、故障するとは。カンレキのアルファフォースに驚いた。」

デスカイダは、そういうと立ち去って行った。

「デスカイダ様、待ってください。」

ロンヴは、デスカイダの後を戦闘機に変形して立ち去った。

カンレキは、アルファフォースによる疲労感で機能停止状態になっていた。

「大変だ！カンレキさんが、機能停止に。」

サイバトロンの星の危機を救え part 4 (後書き)

次回 part 5 に続きます。

サイバトロン星の危機を救え part 5 (前書き)

機能停止になってしまったカンレキこの先どうなるのか？

サイバトロン星の危機を救え part 5

機能停止になってしまったカンレキを心配そうに見ているハバロンとヨズプイム。

「ハバロン、カンレキさんをエネルギーに浸しとけば回復するのですね。」

「燃え尽きているだけで、コントロールパネルがオーバーロードをしていた。エネルギーは、オーバーロードを修復することもできる。」

カンレキを見守りながら、ヨズプイムだけで行動とることにした。

一方、ネメシスディセプティコンでは・・・

デスカイダは、第一軍から第十四軍までの隊長をかき集めた。

「サイバトロン星制圧に関する協議を行う。」

第一軍リーダー、アポロデス

第二軍リーダー、ブレイクウェーブ

第三軍リーダー、ベータガンマ

第四軍リーダー、プロトナット

第五軍リーダー、ナノカイド

第六軍リーダー、アヴルメーロ

第七軍リーダー、グランドバレルⅡメガサイド

第八軍リーダー、ブラックホールキング

第九軍リーダー、ノイズラスト

第十軍リーダー、デッドオアアライブ

第十一軍リーダー、エレメントイレイザー

第十二軍リーダー、デリートパラダイス

第十四軍リーダー、アンチノアログア

ネメシスディセプティコン破壊大帝、デスカイダ。

この十五人は、カンレキ達にとって、脅威の存在になっている。

「一斉に総攻撃をかける。全ネメシスディセプティコンに報告する
ように。」

「了解しました。デスカイダ様。」

サイバトロンの星に総攻撃をかければ、今のオートボットは、全滅してしまふ。

カンレキが回復するまでの時間は、30分。

それまでにオートボットがどうもがこうが、ネメシスデイセプティ
コンには関係ないこととなってしまうている。

サイバトロンの星の危機を救え part 5 (後書き)

次回 part 6です。お楽しみに！

サイバトロン星の危機を救え！ part 6 (前書き)

ネメシスデイセプティコンは一斉にサイバトロン星に向かっていった。

サイバtron星の危機を救え！ part 6

「デスカイダ様、この後は我々の考案した作戦で行きます。」

「よし、総攻撃をかける前にわしが準備運動しに行く。後は、御前等で殺れ！」

「了解！デスカイダ様万歳！」

「このわしこそが、破壊大帝にふさわしい。デスカイダスペシャルモード！」

デスカイダが、再び攻めてきた。

カンレキも復活した。

「カンレキさん、大変だ。またエヴァみたいなやつが。」

「エヴァみたいなやつ。」

「もしかしたら、デスカイダのことじゃないのか。」

ヨズプイムとオートボットの一人がそう叫んでやってきた。

「デスカイダという破壊大帝が攻めてきやがったー！」

オートボットの一人がそう叫んでやってきた。

「ハバロン、ヨズプイム。合体して戦うぞ。」

「しかし、カンレキ殿。体がまだアルファフォースの力で。」

「エネルギーのおかげで、元通りになったところか、パワーアップできるようになった。」

「カンレキ!」「ハバロン!」「ヨズプイム!」「トリプルリンクアップ!カンレキハイパーモード!」

デスカイダは、カンレキが復活したことにまだ気が付いていない。

「デスソード!」「デスキャノン!」

デスカイダの左腕はソード、右腕には融合カノン砲が現れた。

「死を味わえ、オートボットの愚図共!」

「メテオバーストインパクト!」

「お前は、カンレキ。機能停止したはずじゃ・・・」

「私は、エネルギーにより、地獄の底から舞い戻った!」

サイバトロンの危機を救え! part 6 (後書き)

次回 part 7です。お楽しみに

サイバトロン星の危機を救え！ part 7

「地獄の底から、舞い戻っただと！良いだろうもう一度地獄に堕ちろ！ヘルズバレルアンリー！」

カンレキは、デスカイダの攻撃を避けた。

「何だと！」

「形勢逆転だ！アルファフォース合体！カンレキアルティメットモード！」

「そんな小細工、わしには何も思わない。」

「それはどうかな、ツイサージフルカノンミスト！」

デスカイダは、サイバトロン星から追い出された。

「なんだこの力は、わしの体が少しも耐えること出来なかった。」

「デスカイダ様、大丈夫ですか？」

「代わりに、グランドバレルⅡメガサイド。お前が行け！」

「分かりました。」

カンレキは、グランドバレルの攻撃を避けまくっていた。

「あいつだけじゃ、全然ダメだ！」

「待て、エレメントイレイザー！」

「エレメントインパクトデリート！」

「オメガイニシャルファイヤー！」

二つの技は、相殺しあった。

グランドバレルは、カンレキを取り押さえた。

「さあ、死をいざなってやる！」

カンレキは、ピンチになってしまったのだが・・・

「バレルティックダウン！」

突然、グランドバレルの両腕がもげた。

「なっ、技が発動できねえ。」

「ベクターシグマセイバー降臨！」

カンレキは、究極の力を手にしていた。

「宇宙創造の力を受けてみろ！」

エレメントイレイザーとグランドバレルは、カンレキに襲いかかってきた。

サイバトロンの星の危機を救え！ part 7 (後書き)

次回 part 8に続く。お楽しみに！

サイバトロン星の危機を救え！ part 8

カンレキは、究極の力を持った。

デスカイダは、攻める準備をした。

「エレメントイレイザーとグランドバレルの仇を討てー！」

ノイズラストが、フォースチップをイグニッションした。

「サテライトノイズアーム！」

カンレキは、攻撃を受けたかのように見えた。

「そんな攻撃、痛くもないな。宇宙創造創造聖夜舞葬剣！」

ノイズラストの両腕が二の腕辺りまで切断された。

「なっ、強すぎて対抗ができない。」

ブラネット・インパクト
「惑星輪廻！」

ノイズラストは、振動で爆発した。

ブラックホールキング達5人は逃げて行った。

アポロデス、ブレイクウェーブ、アヴルメーロ、デッドオアアライ
ブ、アンチノアロギア、デスカイダの六人は、散らばって行動をと
ることにした。

「くっ、どうにかしないとまずい。わしの考えがくるってしまふ。」

サイバトロンの星の危機を救え！ part 8 (後書き)

次回 part 9 に続く。

サイバトロン星の危機を救え！ part 9

「くっ、どうにかしないとわしの考えが狂ってしまう。」

アポロデスは、カンレキに追いかけていた。

「アルティメットモードになったところで、いい気になるな！」

アポロデスの攻撃をカンレキは防御した。

「宇宙創造舞葬剣！」

アポロデスの頭の角が2本すべて落ちた。

「なっ、俺の大切な角を。許さん、デスカリバリ！」

アポロデスが放ったバズーカ砲をカンレキを受けてしまった。

「うわあああああああ！くっ、やられはしない！」

「死ねカンレキ貴様を殺す。サードファイナル！」

「惑星輪廻EX！」

「なっ、来るなー！ほあああああああ！」

大きな爆発とともにアポロデスは、死亡した。

カンレキアルティメットモードは、デッドオアアライブのほうに向

かった。

「ちっ、きやがったか。ふふふ、すでに罠に掛かっている。」

カンレキは、全身に糸が絡まっていることに気がついた。

「何だこれは？」

デッドオアアライブは、カンレキに激しいラッシュを食らわせた。

「ドアアアアアア！」

カンレキは、左腹と右足と左腕が少し故障していることに気がついた。

「こんなときに。」

「カンレキ、デスカイダ様のご命令で俺が貴様を殺す！」

「カンレキよ、更なる進化を実行せよ！」

「カンレキレジェンドモード！」

サイバトロンの星の危機を救え！ part 9 (後書き)

次回 part 10です。お楽しみに！

サイバトロン星の危機を救え！ part 10

「カンレキレジェンドモード！」

アルティメットモードにはなかったバズーカ砲が追加されて更になくなった。

デッドオアアライブは、カンレキの行動をうかがっていた。

「そろそろ行くぜ！ラッシュアイランドファイニッシュ！」

デッドオアアライブの攻撃を片手で止めたカンレキ。

「この技は、島を一個破壊できるほどの力を持っているというのに。何者だ貴様。」

「バーストテクニカルストームランチャー！」

カンレキの攻撃が五連撃になってデッドオアアライブの体の一部を破壊した。

デッドオアアライブは、左腕についているキャノン砲で攻撃しようとしたがスイッチが入らなかった。

「なに？今の攻撃でショートしたのか。」

カンレキは、デッドオアアライブを見ていた。

「所詮、ネメシスディセプティコンで生まれたことが後悔すべきど

ころだ。バーストテクニカルストームランチャー！」

デッドオアアライブは大爆発して死亡した。

ブレイクウェーブとデスカイダは、その場にいた。

「デスカイダスペシャルモード！」

サイバトロン星の危機を救え! part10 (後書き)

次回 part11。お楽しみに。長い今回のお話もいよいよ佳境へ。part13まであるのであと少しです。

サイバtron星の危機を救え part 11

「デスカイダスペシャルモード！」

ブレイクウェーブとデスカイダは、カンレキに攻撃を開始し始めた。

「パワーアップしたとしても、我々には勝てるはずがない。」

カンレクレジェンドモードは、素早くよけた。

「なにつ、デスカイダ様。」

「わかっている。この状態はまずい。」

カンレクレジェンドモードは、ブレイクウェーブをマークした。

「バーストテクニカルストームランチャー！」

ブレイクウェーブは吹き飛ばされた。

「デスモーションファイナルキャノン！」

デスカイダの攻撃が、カンレクレジェンドモードに命中した。

デスカイダは、相手を離れかして、何やら企んでいた。

「ブレイクウェーブ合体だ。」

「了解！」

サイバトロン星の危機を救え part11 (後書き)

次回 part12に続く。

サイバトロン星の危機を救え！ part 12

「デスカイダ」「ブレイクウェーブ」「リンクアップ！デスカイダスパークバレルモード！」

カンレキは、デスカイダが合体したことに気が付いた。

「どうやら、合体したようだな。」

カンレキレジェンドモードは、デスカイダごと吹き飛ばす必殺技を出そうとしていた。

「カンレキよ、消え失せろ！デッドアガーヴァリオン！」

カンレキは、攻撃を避けて一気に攻めに入った。

ブレイクソウルイビルバースト
「鉄宇宙満天星滅」

デスカイダは、その攻撃を受けた。

サイバトロン星の危機を救え! part12 (後書き)

次回 part13 です。お楽しみに!

サイバtron星の危機を救え！ part13

デスカイダはその攻撃を受けた。

「このわしが、こんな技に負けるはずがな……」

デスカイダは、建物に当たり大爆発した。

「なにっ！」

「見ろ！カンレキの奴、パワーアップしているぞ。」

「デスカイダ様は。」

「やられてしまったようだ。」

ブレイクウェーブは消滅した。

デスカイダは、瀕死の状態となった。

アヴルメーロとアンチノアロギアは、デスカイダのほうに向かっていった。

デスカイダはその二人からエネルギーを吸い取った。

「わしの最期のエネルギーとなれ！」

「やめろ！デスカイダ！」

「うおおおおお！デビルデスカイダ！」

カンレキレジェンドモードを吹き飛ばそうとする威圧感がデビルデスカイダに降り注いでいた。

「最終決戦だ！カンレキ！」

「望むところだ。デビルデスカイダ！」

サイバトロン星の危機を救え！ part13（後書き）

次回 最大級決戦 part1。お楽しみに！

最大級決戦 part 1

「デビルデスカイダ、此処で貴様を倒す！」

「ははは、貴様を倒せばわしは宇宙の覇者になるのだ。」

カンレキは、デビルデスカイダの行動を読みながら行動をとった。

「デビルデストロイングキャリバー！」

「うわああああ！」

カンレキは吹き飛ばされて一瞬のうちに満身創痍の状態になってしまった。

「強すぎる。」

デビルデスカイダは、止めを刺そうとしていた。

しかし、その時白い光がカンレキに当たった。

「何だ？」

カンレキの姿が見る見るうちに変わり、白き黄金の戦士になった。

「カンレキΩモード！」

「更にパワーアップしたのだ！ならば、デビルデストロイングキャリバー！」

カンレキΩモードに命中したのだが、全くの無傷であった。

「そんな馬鹿な。」

最大級決戦 part 1 (後書き)

次回 part 2です。お楽しみに！

最大級決戦 part 2

カンレキΩモードはデビルデスカイダを吹き飛ばした。

「くっ！あいつの攻撃力が異常に上がっている。いやこっちの方がまだ上だ。」

「観念しろ！デビルデスカイダ！」

「ふんっ、お前との最後の決着に観念という文字は似合わない。」

「そういうことか。ならば最後の決着だ。」

「Ωモードで立ち向かうのは良くないなカンレキ。せめてお前のスパーモード形態で勝負を付けたい。」

カンレキは悩んだ。

「カンレキ殿、我々を分離してください。」

「しかし、今の奴は手ごわい勝てる余地があるものか。」

デスカイダは、カンレキを嘲笑った。

「お前、まさか戦う最初から負けることばかりを考えていたのか。ハハハハハハ。アルファフォースの名に傷がつくぞ。カンレキは弱虫だな。」

「何だと！」

「待て、ハバロン。確かに最初から負けることばかりを考えていた。しかし、私を侮辱するのなら容赦はしない！リンクオフ！」

カンレキスーパーモードになりこう告げた。

「あの恒星に落ちたものが負けだ！」

「こういうことか、恒星の暑さで死ぬという負け方か両者にしても輝かしい最後に見えて気持ちがいいぞカンレキ。じゃ決まりだ。」

「望むところだ！」

ついに、最終決戦が始まる。

次回、最終回。

最大級決戦 part 2 (後書き)

本当に最後になります。カンレキを今まで見てくださった方々、震災でカンレキを見ることができなくなってしまった方々。本当に最終回を楽しみにしてください。最終回の後、緊急告知がありますのでお楽しみに！

最大級決戦 part 3

恒星の上に二つの戦士が闘志を燃やしていた。

「行くぞ、デスカイダ！」

「望むところだ！カンレキ！」

両者の力のぶつかりが、恒星のプロミネンスを美しくしていた。

カンレキとデスカイダの戦いは、恒星の磁場をゆがませてしまっていた。

「アルファフォースの影響で爆発しかけているのか。」

「カンレキ、覚悟！」

「ふんっ！ビクトリーファイアー！」

「アルファフォースの力がこの星に悪影響を与えている。しかし、わしには関係がない！仲間を失ったわしの怒りだー！」

「デスカイダ。」

「カンレキ、恒星もろとも消えてしまえ！」

デスカイダはアルファフォースを使い巨大なフィージョンカノン砲を作り出した。

「カンレキ、バッドバイ！」

デスカイダは、巨大なフィージョンカノン砲を発砲した。

カンレキに命中し、カンレキは体が粉々になりかけた。

「しぶとい、しぶといぞ！」

カンレキは、アルファフォースを剣にした。

「デスカイダ、剣と剣をぶつけ合おうか。」

「良からう、わしの戦いは永遠に不滅だ！」

デスカイダは闇の剣で攻撃を始めた。

しかし、アルファフォースの力が膨大なため、恒星がますます爆発しやすくなってしまった。

カンレキは、デスカイダの翼の部分をすべて削ぎ落とした。

「強い、流星のわしでもお前の強さを認めよう。カンレキ、わしを撃て！」

「デスカイダ。」

「恒星の爆発とともにわしは散る。しかしアルファフォースを持つものは不死身である。だから撃てカンレキ！」

「分かった。デスカイダあああああああ！」

「カンレキイイイイイイイイ！」

カンレキは、ビクトリーファイアーでデスカイダを攻撃した。

「それでいい。ライバルらしさの散り方にふさわしい。さらばカンレキ。今まで楽しかったぞ。」

デスカイダは、恒星に向かってアルファフォースで作ったカノン砲を解き放ち、その恒星の爆発とともに消えた。

カンレキも爆発に巻き込まれて、スーパーモードが消し飛び、左腕がもげた。

「カンレキ殿！そのお怪我は。」

「デスカイダは、最後の最後で私達に知らしめた。ディセプティコンに眠る正義を。」

恒星のあった場所に、デスカイダのスパークがあった。

「デスカイダ、風変わりな破壊大帝。友を大切にし共に闘う精神はトランスフォーマーの歴史に残るであろう。」

そして数年後

カンレキは、オートボット軍総司令官に就任した。

「私がいる理由は、ディセプティコン破壊大帝デスカイダのおかげでもある。私は、そんなデスカイダに負けない勇者になる！共に戦

おう諸君！」

「カンレキ、カンレキ、カンレキ」

歓声が響き渡るサイバトロン星。

デスカイダのスパークは、上空からオートボットを見た後、宇宙のどこかへと行ってしまった。

カンレキ、完結。

最大級決戦 part 3 (後書き)

緊急告知、カンレキが同人誌として登場します。来年の夏のコミケで販売する予定です。

これからカンレキシリーズをよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5170j/>

カンレキ

2011年10月9日22時52分発行